

会長就任のご挨拶



令和8年6月吉日

公益社団法人 北海道臨床工学技士会

会長 布施 崇宏

会員の皆さまにおかれましては時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本会の活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。このたび、会員の皆様のご信任を賜り、引き続き会長の重責を担わせていただくこととなりました。改めて身の引き締まる思いでございます。

会長就任1期目におきましては、本会の組織運営の基盤強化に重点を置いて取り組んでまいりました。まず、代議員制度を導入し、全道各地の会員の皆様の声を、よりの確に組織運営へ反映できる仕組みを整えました。これにより、地域や施設ごとに異なる現場の実情や課題を、意思決定の場に届けやすくする体制づくりを進めることができたと考えております。

また、会員情報システムを導入し、会員管理や情報共有のデジタル基盤を整備いたしました。これまで属人的な部分も多かった事務運営を効率化するとともに、会員の皆様への情報発信や各種手続きの利便性向上にもつながる取り組みとなりました。これらは派手な成果ではないかもしれませんが、本会が今後さらに発展していくための「土台づくり」として、着実に前進できたものと自負しております。この場をお借りして、1期目を支えてくださった役員の皆様、そしてご協力いただいたすべての会員の皆様に、心より御礼申し上げます。

2期目となる今期は、これまで整えてきた組織運営の基盤の上に立ち、職能団体としての活動そのものに、より一層目を向けてまいりたいと存じます。医療を取り巻く環境は今後も変化を続けていきます。そうした変化の中にあっても、臨床工学技士という職能が、これから先も長きにわたり社会の中でその役割を果たし、活動し続けていけるよう、組織としての基盤をさらに強固なものにしていくこと。これが、今期の会務運営における大きな柱でございます。具体的には、組織の再編を進めながら、臨床工学技士という職能の社会的認知度向上をはじめとする組織強化の取り組みを進めてまいります。医療現場において臨床工学技士が果たしている役割を、社会に対してより明確に、より広く伝えていくことは、職能の将来にわたる発展にとって欠かせないものと考えております。

その第一歩として、組織強化委員会の設立に向けた準備を行うためのワーキンググループを立ち上げ、具体的な検討を開始いたします。あわせて、臨床工学技士が有する医学と工学の両分野にまたがる資格特性を活かし、医工連携ワーキングも新たに立ち上げてまいります。医療機器や医療技術の進歩が加速する中、臨床現場のニーズと工学的なシーズを結びつける役割を担える臨床工学技士は、医工連携の分野において本来大きな強みを発揮できる存在であると考えております。この特性を組織的な活動として具体化し、臨床工学技士の新たな活躍の場を広げていくことも、今期取り組むべき重要なテーマのひとつでございます。今後、それぞれのワーキンググループでの議論を踏まえながら、組織のあり方や活動の方向性について、会員の皆様にも適宜ご報告してまいりたいと存じます。

臨床工学技士が、これから先も誇りを持って活動し続けられる職能であり続けるために、微力ながら全力を尽くす所存でございます。会員の皆様には、これまで同様、あるいはそれ以上のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。